品種保存へのささやかなお手伝い

広島県廿日市市　三輪　昇

　平成十三年六月十二日に大船フラワーセンターでの日本花菖蒲協会展示会が再開されました。その初日に、私は広島から駆け付け、先輩諸氏の丹精込められた立派な花々を充分に堪能させて頂きました。以来、毎年必ず初日に訪れることにしております。この展示会で毎年買い求めた優良品種が我が家の花菖蒲の大半を占めています。同年十月二十八日、東京日比谷公園内の、松本楼で開催された日本花菖蒲協会七十周年記念祝賀会にも出席させて頂き、色々なお話をお聞きしましたが、特に三池延和氏の語られた「品種保存の大切さ」が強く私の心に残りました。私も自分の出来る範囲で品種保存に協力しよう、と決心した次第です。

豊平城山公園の花しょうぶ祭り

　会報二十九号（２００１）に「異郷の花菖蒲」と題した拙文を書きました折、「広島は花菖蒲後進地」云々とえらそうなことを言いましたが、広島市植物公園には小粒ながら品種のはっきりした花菖蒲園がありまし、広島市の北に位置する北広島町には開設以来二十四年の歴史を有する豊平城山公園花菖蒲園があり、同園では約三百品種名札の付いた品種を保有しています。私も毎年ここに通い、同園の責任者である池田剛三氏とも親しくさせて頂いております。

　会報三十四号（２００６）でフォトライブラリ設置計画を知り、品種保存の観点から大切なプロジェクトだと直感し、早速城山公園で撮影した写真を清水弘理事長に送って品種同定をお願いしました。初年度分で、十三品種が確認され、２００８年版品種写真集ＣＤＲＯＭにも私の撮影した写真が何枚か収録されました。

　前出の城山公園の池田剛三氏から頂いた２００９年賀状を読んで愕然としました。そこには、「花菖蒲も人出不足で管理が届かず来季はとりやめになりそうです」とありました。これは大変だ、三百品種の花菖蒲が消えて行こうとしている。なんとかとしなければ。早速、私がボランティアとして通っている、広島市植物公園に相談を致しました。植物公園では、園内のガイドを担当するガイドボランティア約七十名いますが、彼等に対して毎年時期になると花菖蒲についての研修会を私が講師として実施しています。花菖蒲に関する歴史・文化・育て方、他のアヤメ科の植物についても併せ解説するなど、自分自身も勉強しながらの講師ですが、こうした関係で植物公園では花菖蒲については私を頼りに思ってくれています。

　折しも、昭和五十八年に開設された園内のハナショウブ園全面改造計画が決定されたことと相俟って、公園側から、「若し先方が同意するなら品種のはっきりしている株を植物公園で引き取ります、交渉は一任します」との内諾を得て、早速城山公園の池田氏と話し合い、同氏の快諾を頂きました。

　二〇〇九年六月、花を再確認した上で、十三品種、江戸系の「糸貫川」「諏訪の湖」「羽衣絞」「濡燕」「十六夜」「初光」「春日野」「花車」「煙夕空」、伊勢系の「花吹雪」「夕霧」「岐山の春」「旭丸」を譲り受けました。これで少しでも品種が救えたな、と思っています。

　品種保存に関して植物公園より受けたもう一つの相談がありました。高知県立牧野植物園で菖翁花を収集しており、広島市植物公園に打診があり、「双方の持つ菖翁花を交換・持ち合いしませんか」というものです。「品種保存の観点からも是非やってください」と進言し、牧野植物公園からは「霓裳羽衣」「王昭君」「蛇篭の波」「昇龍」の四品種、広島市植物公園からは「鶴鵲楼」「七宝」「仙女の洞」「鶴の毛衣」の四品種がそれぞれ交換、持ち合いされました。個人ベースでなく、このような公的機関同士での交流は今後も是非続けて欲しいものだと思いますし、協会としてのテーマの一つになるのではとも考えます。

　横浜に住んでいた当時四十九歳の私が、昭和六十三年一月十六日(土)、明治神宮の参集殿での協会新年互例会に初めて出席した時、お集まりの皆様方のなんと御高齢の方々が多いな、といささか気おくれした記憶があります。私も古希を過ぎましたが、今後とも好きな花菖蒲のために少しでもお役に立てれば、と考えながらの毎日です。皆様の更なる御指導よろしくお願い申し上げます。